

〔研究ノート〕

ゆかたの新しい着こなしに対する意識

下村久美子・白川真理

1. はじめに

近年、若い世代で、夏に着る「キモノ」としてゆかたがブームになっている。従来は入浴中、入浴後に着用される普段着であったが、若者の間では外出着、盛夏の晴れ着として着用されるようになってきた。また、最近では従来の着こなしとは異なる訪問着のデザインを模したゆかたも登場し、さらに襦袢、足袋を身につけ、帯締め、帯揚げを使用して本格的に帯を締める着こなしや、ゆかたにレースで装飾する、ゆかたにかばん、ネール、靴、髪飾りなどをトータルコーディネートした着こなしも見られる。^{1,2)}

ゆかたブームの発端は約20年前に提案されたデザイナーズブランドのゆかたの登場である。その後、プレタ（仕立て上がり）ゆかた誕生や1990年～94年のファッションゆかたの人気など、ニーズに合わせた企画がブーム継続の原動力となっている。

現在、さらに市場の拡大を見込んで企業や百貨店などでは新しいゆかたの着こなしやコーディネートを提案した商品企画も行われ、2003年からユニクロでも取り扱われはじめるなど、セレクトショップなどの新規参入も活発である。³⁾

本研究ではこのようなゆかたブームのなかで、昭和女子大学生生活科学部生活環境学科の学生を対象にゆかた所持の現状とゆかたの新しい着こなしに対する意識について調査し、女子学生の動向をさぐった。

2. ゆかたについて

ゆかたの起源は、平安時代に貴族が蒸し風呂に入るとき、水蒸気でやけどしないように着た湯帷子^{ゆかたびら}がはじまりとされている。帷子^{かたびら}とは麻の着物のことで、その時代、綿は高級品とされていたため、装束の下着となる薄い着物は麻でつくられていた。その後江戸時代後期になって綿の生産量が高まり、庶民に普及するとともに湯帷子の生地も麻から綿が変わった。また、銭湯の普及にともない着用の場が増えたため略されて「ゆかた」と呼ぶようになった。⁴⁾

ゆかたの染色は、平安時代から江戸時代まで藍染で染色した白地に藍色が主流であったが、その後合成染料の発達

と染色方法の開発とともに多色染めとなり現在に至っている。従来の染色は反物に型を用いて糊置きし藍染め液に浸染する方法であるが、その後、反物を屏風だたみにしながら型で糊を置き、染料を上から流しこみ下からバキュームする方法（注染）によって染色する方法が主流となった。その後多色染めの捺染（型を使用して染料の入った糊で染色する方法）によるプリントゆかた、さらにインクジェット方式によってプリントしたゆかたも製造されている。製造方法の多様化により、ゆかたの柄を自由に選ぶことが可能となり、より個性的な柄のゆかたをデザインすることもできるようになってきている。また、ゆかたの柄は、従来は白地に紺、または紺地に白で、柄の大きさが中くらいのものは中形と呼ばれ、涼しげで粋であったことから「中形」は江戸時代にはゆかたの代用語となっていた。このようなオーソドックスなゆかたも新しい感覚の柄と並んで見直されてきている。

さらに先にも述べたようにゆかたの着装方法も変化してきている。蒸し暑い夏を涼しくすごすためのゆかたから、外出着の形式の着装が注目されてきている。このような着装変化はエアコンなどによる生活環境の変化も影響していると考えられる。

3. アンケート調査

(1) 調査対象

調査対象は昭和女子大学生生活科学部生活環境学科18歳から22歳までの学生102名である。

(2) 調査内容

調査内容は、着用の有無・ゆかたの所持、ゆかたの色、柄、購入価格、髪型、持ち物、新しいゆかたのコーディネートについてである。

(3) 調査実施期間

調査は平成17年10月16日～11月15日に行った。

(4) 調査結果および考察

1) ゆかたの着用経験と所持枚数

図1はゆかたを着たことがあるかどうか、図2はゆかたを着たことのある場合に、ゆかたをまた着たいかどうかをたずねた結果である。ほとんどの学生がゆかたを着用した

ことがあり、ゆかたをまた着たいと考えている学生は約9割と多く、ゆかたブームを反映した結果であった。また、ゆかたを着たことがあると答えた学生が1シーズンに何回着用するかたずねた結果は平均して1.46回であった。着用回数は多いとはいえないが、夏のファッションアイテムとして定着していることがうかがえる結果であった。

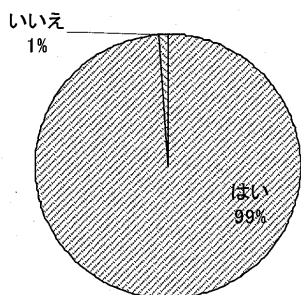


図1 ゆかたを着たことがある

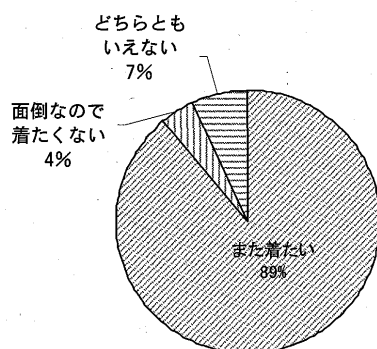


図2 ゆかたをまた着たいと考えている

図3はゆかたが好きかどうかをたずねた結果である。調査対象の97%は好きと答え、ほとんどの女子大生がゆかたは好きであることがわかった。これもゆかたを着用する動機の1つになっていると考えられる。ゆかたブームであるために好きなのか、それに関係なく好きなのかは分からないが、ゆかたが好きであるということは、購入意欲や、新しいゆかたの着方、コーディネートした新しい感覚のゆかたにも反映していくと考えられる。

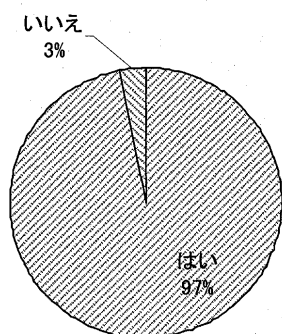


図3 ゆかたが好き

ゆかたを何枚持っているか調べた結果、平均保持枚数は1.98枚であった。ゆかたを持っている場合は2枚程度持っていることがわかった。1シーズンの平均着用回数は1.46回であることから、ゆかたは持っているが、限られた機会にしか着用していないことがうかがえる。普段に着るものではなく、おしゃれ着としての感覚で着用していることが推測できる。

2) ゆかたを着る機会

図4はゆかたをどのような機会に着用するかを調べた結果である。あらかじめゆかたを着る機会であると考えられる、祭り、花火、夏の家庭着、旅行、イベント、その他の中からの選択とした。図4のとおりゆかたを着る機会が最も多いのは花火大会で52%であった。次は祭りの38%である。学生にとって、花火大会は、祭りとは比べ、身近で、魅力的なものであることもうかがえる。また、夏の代表的な行事である花火＝ゆかたのイメージは定着している。花火は比較的身近に参加できるが、一方祭りは参加する機会が限られていることも少なかった理由と考えられる。次にイベントは6%であった。イベントの内容についての詳細は示さなかったが、花火大会や祭り以外の大学祭や企業などが主催するゆかたで参加する行事などが考えられる。これらのことから日本的な行事とゆかたは密接な関係があることがわかる。ゆかたは普段に着ることは少なく、花火や祭りなどの夏のイベントにおしゃれ着として、年に1,2度着用している。このことはゆかたの着用時の着付けが自分でできるかどうか、普段に着用するには帯による締め付けが気になるといった要因も影響していると考えられる。

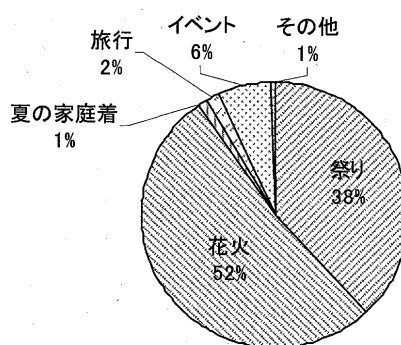


図4 ゆかたを着る機会

図5はどんなときにゆかたを着たいと望んでいるかを調べた結果である。花火や祭りだけではなく夏の家庭着や旅行で着たいと考えている学生もいるが、ごく少数の意見であった。ゆかたを着たいが簡単に着用できない、1人では着付けできないといったことがゆかたの着用機会を減少させていると考えられる。また、好きなゆかたを選んで着る

ことができるホテルなどもあり、希望する学生が多いのではないかと推測したが、今回の調査ではゆかたを着る機会として旅行を考える学生は少なかった。

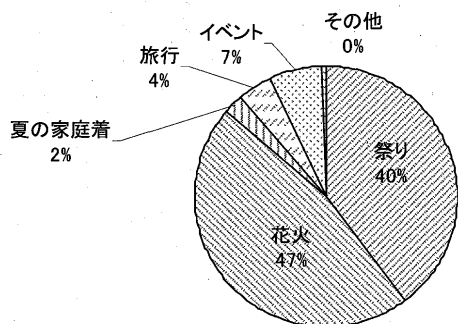


図5 どんな時にゆかたを着たいか

3) ゆかたの色、柄について

図6は持っているゆかたの色について調べた結果である。ゆかたの色は紺、赤、黄色、紫、ピンク、ベージュ、黒、茶、緑、白、その他から選択させた。図6のとおり、持っている浴衣の色は紺が37%と多く、次に黒、ピンク、紫の順であった。近年パステルカラーや明るい色のゆかたが人気であるかと考えていたが、伝統的な紺に近い黒や紫など濃色のゆかたを所持していることがわかった。

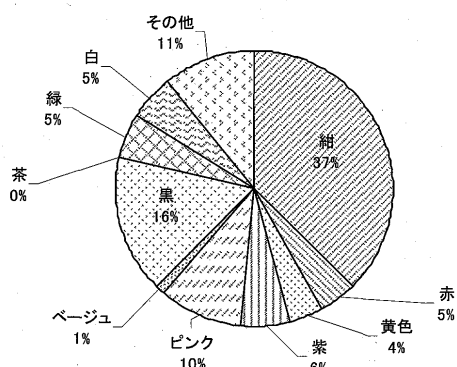


図6 持っているゆかたの色

また、持っているゆかたの柄については花柄、水玉、ストライプ、幾何学、その他からの選択とした。その結果、図7のとおり持っているゆかたの柄は、半分以上63%が花柄で、次に幾何学模様10%であった。この結果からも従来の伝統的なゆかたが好まれていると考えられる。

図8,9はそれぞれ、これから欲しいと思っているゆかたの色、柄について調べた結果である。

図6のとおり、現在持っているゆかたは紺が最も多かったが、次に欲しい色は紫22%、黒21%と多かった。ベージュやピンクなどパステルカラーは人気があるのではない

かと推測していたが、伝統的なイメージの濃色のゆかたを望んでいることがわかった。また、柄は図9のとおりで、現在持っているゆかたの柄として最も多い花柄を希望する人が最も多く、個性的な幾何学模様などを希望すると推測していたが、オーソドックスな柄を好む傾向であった。

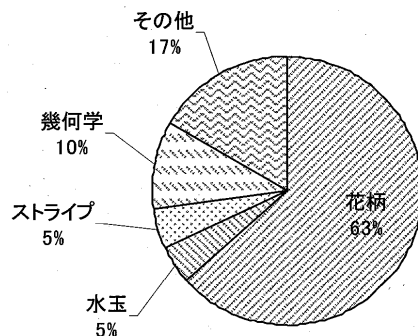


図7 持っているゆかたの柄

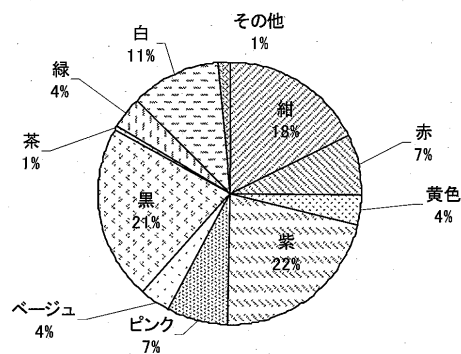


図8 今後欲しいと思っているゆかたの色

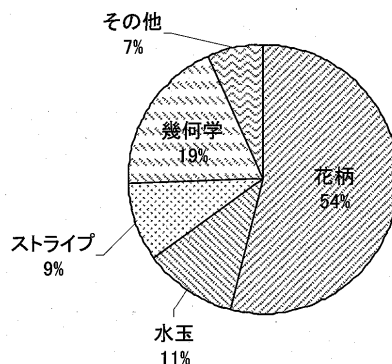


図9 今後欲しいと思っているゆかたの柄

表1,2は現在持っているゆかたの色、柄と欲しいと思っているゆかたの色柄について、それぞれ色、柄別にまとめた結果である。いずれもカイ2乗検定の結果、有意確率0.00000で有意であった。ここに示すように、持っているゆかたの色、柄によって欲しいと考えている色柄は違う傾向が見られた。紺を持っている場合は全体的にばらつきが認められるが、黒、紫を欲しいと希望している割合が20~25%と多い。また、白を持っている場合は、紫33.3%、黒、白22.2%を希望しており、同じ白色を希望する割合

表1 持っているゆかたの色と欲しいと思っているゆかたの色

(%)

希望する色 持っている色	紺	黒	ピンク	紫	赤	緑	白	黄	ベージュ	茶	その他
紺	10.1	24.1	8.9	21.5	8.9	6.3	10.1	6.3	2.5	0.0	1.3
黒	24.2	6.1	9.1	27.3	6.1	6.1	9.1	3.0	6.1	3.0	0.0
ピンク	25.0	25.0	4.2	25.0	4.2	4.2	4.2	8.3	0.0	0.0	0.0
紫	12.5	18.5	18.8	12.5	6.3	6.3	18.8	0.0	6.3	0.0	0.0
赤	30.8	15.4	0.0	23.1	7.7	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	7.6
緑	14.3	14.3	7.1	14.3	0.0	7.1	21.4	7.1	14.3	0.0	0.0
白	11.1	22.2	0.0	33.3	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
黄	0.0	14.3	0.0	42.9	14.3	14.2	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
ベージュ	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	18.2	18.2	18.2	13.6	4.5	0.0	13.8	4.5	4.5	4.5	0.0

カイ2乗値(自由度) 4250.795(80) p値 0.00000

表2 持っているゆかたの柄と欲しいと思っているゆかたの柄 (%)

希望する柄 持っている柄	花柄	水玉	ストライプ	幾何学	その他
花柄	53.6	9.5	10.7	19.0	7.1
幾何学	52.9	11.8	11.8	11.8	11.8
ストライプ	16.7	16.7	16.7	50.0	0.0
水玉	42.9	14.3	28.6	24.3	0.0
その他	45.0	20.0	0.0	30.0	5.0

カイ2乗値(自由度) 1093.564(16) p値 0.00000

は他の色に比べて多い結果となった。白地の伝統的な色を好む傾向であることがうかがえる。また、ゆかたの柄はストライプ柄以外を持っている半数の40~50%は花柄が欲しいと答えたが、ストライプ柄を持っている場合は、花柄16.7%と少なく、50%が幾何学と答えており、他の柄とは違う傾向が見られた。今回のアンケートでは、モダンな印象を連想するストライプ柄を持っている場合は同様にモダンな印象の幾何学模様を好む傾向があると考えられる。

4) ゆかたの購入価格について

図10は所持しているゆかたの購入価格を調べた結果である。ゆかたは他の着物に比較すると低価格であるので価格購入設定は3千円以下、5千円~1万円、1万5千円~3万円、3万5千円以上として選択させた。その結果図10のとおりゆかたの購入値段は1万5千円~3万円が55%と多く、次いで5千円~1万円が41%であった。ゆかたは他のきものと比較すると比較的安価であり、1万円前後

も多いが、3万円前後が主流のようである。また、帯の値段について購入価格をたずねたところ、図11に示すように5千円~1万円が70%と多かった。

さらに、帯の購入の決め手はゆかたとの調和81%、合わせ易さ17%、個性的1%、その他1%の結果であった。ほとんどの学生は、ゆかたと帯の調和で購入していることがわかった。ゆかたと帯で4万円程度のものを購入しているようである。

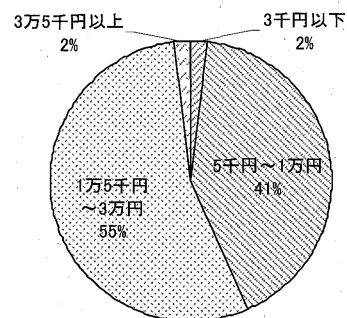


図10 ゆかたの値段

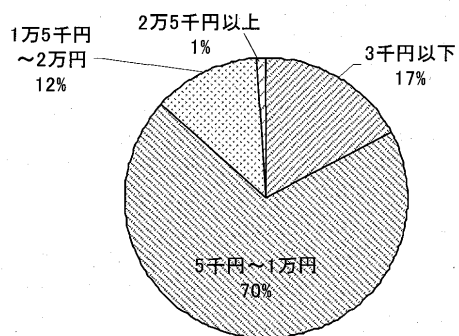


図11 帯の値段

5) ゆかたを着る時の髪型

浴衣の着用と髪型についてたずねた結果を図12に示した。選択項目は普段とまったく違う、ある程度違う、ほとんど変わらない、特に意識しないから選択させた。ある程度違うが73%、次に全く違うが20%で、約9割の学生は、ゆかたを着る時は髪型も意識して合わせていることがわかる。

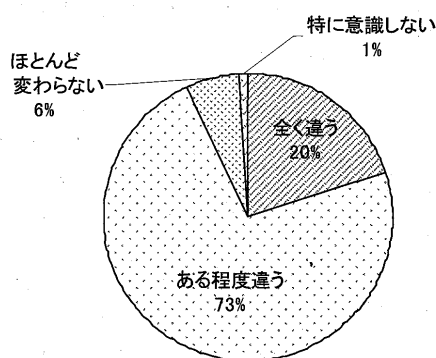


図12 ゆかた着用時の髪型

6) ゆかたを着るときのかばん

図13はゆかたを着たときに持つかばんについてきんちゃく、ゆかた用のかごバッグ、普段用のかごバッグ、その他から選択させた。その結果、きんちゃくが72%と最も多く、ついでゆかた用のかごバッグであった。古典的な組み合わせが9割と多く、伝統的なゆかたのコーディネートが主流であった。

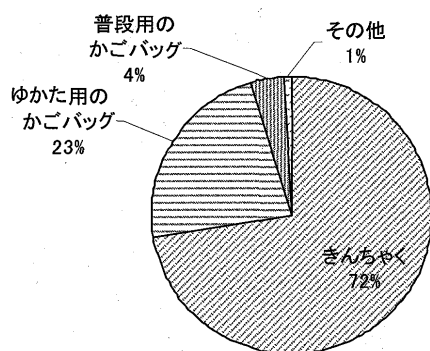


図13 ゆかたのときのかばん

7) ゆかたに対する新たなコーディネートについて

近年、ゆかたの着こなしで新たなコーディネートが提案されている。これについてどう思うかをたずねた。これらのコーディネートについて、良いと思わない、一部取り入れたいと思う、取り入れたい、興味ないからの選択とした。

図14のとおり、一部取り入れたいと考える学生が42%、取り入れたい学生が16%で、半数の学生は興味もあり、取り入れたいと考えているが、29%の学生は良いと思わないと考えている。この結果は、ゆかたの色、柄、持ち物についての結果と共通して、伝統的なゆかたが良いと考えている学生が多いことがわかった。

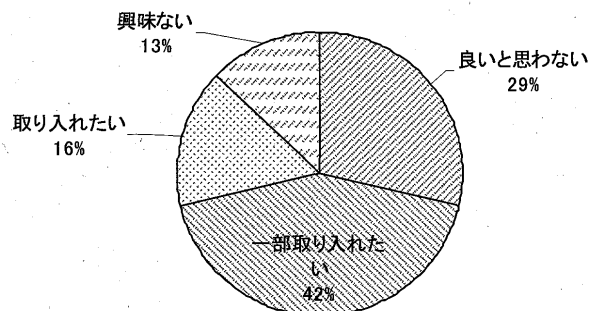


図14 新しいゆかたの着用形態に対する考え

8) ゆかたをどのように着用したいか

次にゆかたをどのように着用したいかをたずねた。質問は伝統的に、個性的に、普段着のように、特別な雰囲気、その他の選択とした。その結果、図15に示すとおり、54%はゆかたを伝統的に着たいと考えており、次いで、独特な雰囲気が23%、個性的には19%であった。普段着としては4%と低かった。ゆかたは日常的に着るのではなく、花火大会やお祭りなど日本的な行事の時に、従来通りのゆかたと下駄・きんちゃくで着たい。ゆかたで個性的に装い、特別な雰囲気を楽しみたいと考えているようである。

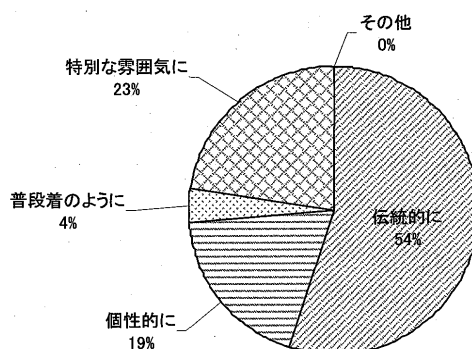


図15 ゆかたをどのように着用したいか

4. まとめ

昭和女子大学生活環境学科の学生のゆかたの所持実態と新しいコーディネートに対する意識調査の結果、次のことがわかった。

1) ほとんどの学生はゆかたの着用経験があり、ゆかた

を持っており、ゆかたが好きである。

- 2) 現在持っているゆかたの色は紺色で花柄が多い。また、欲しいと考えているゆかたの色は紫・黒色が多い。持っているゆかたの柄は花柄が多く、今後も花柄を希望する学生が多いが、幾何学・水玉・ストライプ模様を欲しいと考えている学生も約 40% おり、個性的な色・柄にも挑戦したいと考えていることがうかがえる。
- 3) ゆかたの購入価格は 3 万円程度が最も多く、帯はゆかたとの調和を考えて 1 万円程度のものを購入している。
- 4) ゆかたは普段着ではなく、あくまでも伝統的な行事（花火大会・お祭りなど）の時に伝統的な着方で着たいという傾向が強い。
- 5) 個性的なゆかたは着たいが、新しいコーディネート（レース・ブーツなど）には抵抗があることがわかった。色・柄には個性は出したいがそれ以上はほんの一部分だけ取り入れてみたいという程度である。あくまでも従来通りの着方（ゆかた・下駄・きんちゃく）で、少し挑戦してみてもよいという傾向である。

昭和女子大学生生活環境学科の学生 102 名のアンケート結果であるので、調査対象年齢、調査地域などによって結果は異なると考えられるが、今回のアンケート結果では、ゆかたを日本的な行事の時に着て、日本的な雰囲気に関心するという気持ちが表れており、約半数以上の 54% の学生はゆかたを伝統的に着たいと考えている。しかし、特別な雰囲気に着たい、または個性的に着たいと考えている学生もそれぞれ 23%、19% を占め全体の 4 割強に及んでいる。

謝辞

本調査を進めるにあたり、アンケート調査にご協力いただいた生活環境学科の学生の方々にお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 浴衣大好き! 2005 SUMMER 世界文化社 (2005)
- 2) 夏きもの パッチワーク通信社 (2005)
- 3) 朝日新聞 2005 年 7 月 2 日
- 4) 田中千代 服飾事典 同文書院 (1969)

(しもむら くみこ 生活環境学科)

(しらかわ まり 平成 17 年度生活環境学科卒業生)